朝霧校区まちづくり協議会では、一緒に校区のまちづくりを盛り上げる「まちづくりサポーター」を募集しています。

自然環境、福祉、子ども、伝統文化、歴史、防犯防災、広報活動など、あなたの関心のあること、やってみたいことを活かしてみませんか？

興味のある方は朝霧校区まちづくり協議会までご連絡ください。

■まちづくり計画書策定プロジェクトチーム

・伊藤 邦子　・岩崎 善嗣　・海野 小浪　・大村　大　・岡本 眞和
・落合 芳子　・倉谷　進　・佐藤 弘枝　・嶽肩 純一　・中井 一智
・西谷　寛　・藤尾 末雄　・藤澤 敦子　（五十音順）

■事務局

・朝霧小学校コミュニティ・センター

■アドバイザー

・一般財団法人明石コミュニティ創造協会

朝霧校区まちづくり協議会

〒673-0861　明石市朝霧東町１丁目１番 40 号（朝霧小学校内）
朝霧小学校区コミュニティ・センター
電話／FAX：078-911-4439
E-mail：asagirisyo-cc@city.akashi.lg.jp

発行／2019.6

いこえるまち　ふれあいのまち　元気なまち

～手をつなごう　ひとりじゃないよ　あさぎりは～

朝霧校区まちづくり計画書

あいさつ

朝霧校区まちづくり協議会では、交流・親睦、安全・安心などの課題への取り組みを推進・充実するため長期（10年）の計画の策定を決定しました。このため、平成 30 年 3 月にまちづくり計画書策定プロジェクトチーム（まち協役員とまちづくりに関心のある地域のボランティアの方で構成）を立ち上げ、計画書策定に着手することになりました。

プロジェクトチームでは、住民のみなさまのニーズおよび現状を把握するため、校区内の全世帯を対象とした「朝霧校区まちづくりアンケート」を平成 30 年6月に実施し、さらにみなさまの声を広くいただき反映するため平成 30 年 12 月から3回にわたり住民意見交換会「まちづくりを語り合おう」を開催しました。

この度、みなさまにお届けします朝霧校区まちづくり計画書は、アンケートの結果や意見交換会のご意見、また、市およびコミュニティ創造協会のアドバイスも受け検討を重ね、策定しました。今後、この計画の推進にあたり、住民のみなさまはまちづくりの主役として、より一層のご協力・ご支援を賜りますようお願いいたします。

朝霧校区まちづくり協議会
会 長　長谷川　正
計画書策定プロジェクトチーム

本計画の 10 年とは令和元年度（2019 年度）～令和 10 年度（2028 年度）を指します。

もくじ

朝霧小学校区概要 …… P 1
現在のまちづくり活動 …… P 3
まちづくり計画書策定の流れ …… P 4
まちづくりアンケートの結果 …… P 5
朝霧校区のビジョン（将来像） …… P 7
今後（10 年）の取り組み …… P 9
これからのまちづくり推進体制 …… P11

昭和20年代の朝霧校区
（撮影者不明）

朝霧小学校区概要

「朝霧」って？　～朝霧の今昔～

私たちの住んでいる町の多くに「朝霧」と付けられていますが、平成 26 年 2 月の住居表示変更以前はその多くが「大蔵谷」と呼ばれていました。一説には「この土地は楠の大木が茂って、枝がのび、葉が大地をおおって暗かったので『おおくらだに』と名が生まれた」（兵庫県学校厚生会「郷土の民話東播編」）とあります。昭和 30 年代後半に宅地造成・住宅建築が進むまでは、朝霧川では蛍が飛び交い、荷車が行き交い、緑の丘が連なり、谷筋には田畑が広がりため池が多く、人家もまばらでのどかな風景でした。

一方現在の「朝霧」の名は柿本人麻呂の「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島隠れゆく舟をしぞ思ふ」に由来しています。東朝霧丘、朝霧町に加えて、西朝霧町、大蔵谷の一部の住居表示変更や JR 朝霧駅の開業、昭和 45 年の朝霧小学校、朝霧中学校の開校とともに「朝霧」の呼び名が使われるようになりました。

平成29年度
朝霧校区まちづくり計画書策定事業を開始

平成28年度
「朝霧校区まちづくり協議会」設立

平成27年度
「まちづくり協議会（以下：まち協）発足準備会」を結成しコミ推協からまちづくり協議会への移行に向けて検討を重ねた

平成22年度
ふれあい広場あさぎり開設

平成21年度
県民交流広場事業 開始
併せてコミ推協の拡充を図る

平成16年度
朝霧校区コミュニティ推進協議会（以下：コミ推協）設立

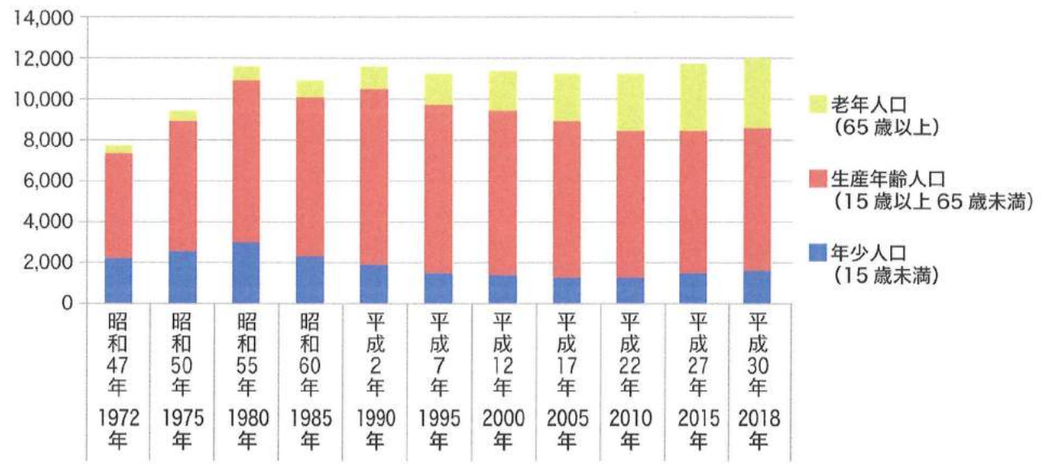
平成9年度
兵庫県南部地震復興事業として左義長・朝霧太鼓が立ち上がる

平成3年度
朝霧小コミセンが開設

昭和50年代
地域の活性化・故郷づくりを目指し盆踊り開始

昭和40年代
単位自治町内会が結集して校区連合自治町内会を結成　45年には朝霧小学校が開校

昭和30年代後半
急速な宅地開発が進む



「山神祠 やまのかみのほこら」
山の神は山を支配し、春に山から下って田の神となり、秋の収穫が終わると山に戻ると言われています。東西と北の丘陵地にはさまれた谷で、山仕事と農作業を行った朝霧の人々が安全と豊作を願ったものと思われます。

「朝霧川」
以前は魚も住めない、悪臭がするといった暗い話も聞かれた朝霧川ですが、下水道の整備や住民の手による清掃活動を経て、多様な生き物が生息する住民の癒やしの川となりました。

「地名由来の石碑」
朝霧公園には、朝霧という地名の由来となった柿本人麻呂の歌（出典：古今和歌集）が記された石碑があります。

現在のまちづくり活動

交流部会

ビジョン

『あらゆる年代が笑顔で交われる地域づくり』

■伝統行事などの継承と振興
左義長まつり・納涼盆踊り大会などの一層の充実

■伝統文化の継承と振興
朝霧音頭普及振興会・朝霧太鼓推進同好会などの後継者づくりや子どもたちへの普及推進

安全・安心部会

ビジョン

『地域内の全ての住民・組織の連携のもとに、防犯・防災体制を強化し、安全安心なまちづくり』

■スクールガード朝霧小学校区の支援と連携
■安全パトロール（学校園周辺の巡回活動）
■あいさつ運動
■朝霧校区安全マップづくり活動
■防犯カメラの設置
■防犯教室・防災訓練の実施

各部会の活動内容

福祉部会

ビジョン

『世代間交流を通して対話と健康づくり』

■シニア世代が参加・交流できる機会と場を設ける
親睦グラウンドゴルフ大会、朝霧校区敬老会など

■子どもや保護者参加型の楽しく交流できる機会と場を設ける
子ども会夏まつりなど

■地域住民の健康管理寄与・健康増進を図る
朝霧校区健診の実施

環境部会

ビジョン

『清掃活動を通じて人や生物の住みやすいきれいな自然環境づくり』

■ごみ減量推進員を選定し、研修会等に参加し、ごみの減量を推進

■明石市と連携し、朝霧川清掃活動を定期的に実施

■朝霧川沿いの精霊流しの実施

盆踊り

敬老会

朝霧川の清掃活動

あいさつ運動

左義長

まちづくり計画書策定の流れ

平成30年 6月～7月
■まちづくりアンケート実施
▶広く住民から朝霧校区や、校区のまちづくりに対する考えを収集、現状把握を行った。
現状把握

▼

平成30年 10月20日
■理事座談会
▶テーマ：「朝霧まち協のこれまで / これから」
→「人を巻き込むための計画づくり、楽しいまち協」に変わる必要性を確認した。
現状分析

▼

平成30年 12月1日
■第１回住民意見交換会「まちづくりを語り合おう」
▶テーマ：「朝霧が将来（3～10 年）、こんなまちになればイイな」
→「世代を超えた交流やつながり作り、若い人でも関われるまち協やコミュニティの必要性」など、これからのまちづくりで大切にしたいことがあがった。
現状分析

▼

平成30年 12月16日
■第２回住民意見交換会「まちづくりを語り合おう」
▶テーマ：「朝霧校区が目指す将来像とは？」
→「多世代が入り交じったまちづくり」「多様な人が自分らしい関わり方ができる」「地域内のネットワークづくり」などをキーワードに下記のビジョンを策定。『憩えるまち、ふれあいのまち、元気なまち～手をつなごう、ひとりじゃないよ　あさぎりは～』
ビジョンづくり

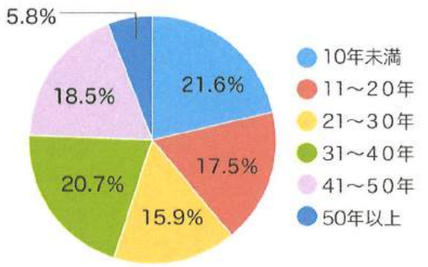
▼

平成31年 2月23日
■第３回住民意見交換会「まちづくりを語り合おう」
▶テーマ：「ビジョンのようなまちにするには、どんな取り組みが必要？」
→「多様な住民がつながり合うための多世代サロン」「まち協の PR・情報発信」「住民がやりたいことが活かせる仕組み」「一日だけでも参加できるまち協」など、多数のアイデアがあがった。
取り組み検討

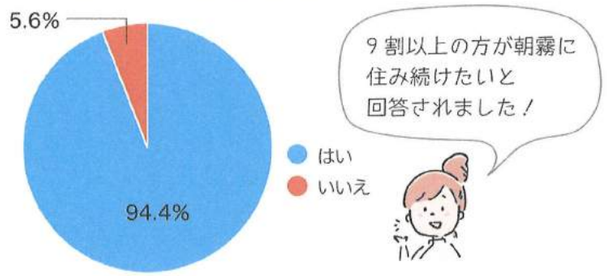
まちづくりアンケートの結果

平成 30 年 6~7 月に住民アンケートを実施。合計 1,017 件のご回答をいただきました。

Q 朝霧小学校区に住まれて何年になりますか？



Q 朝霧小学校区に住み続けたいですか？



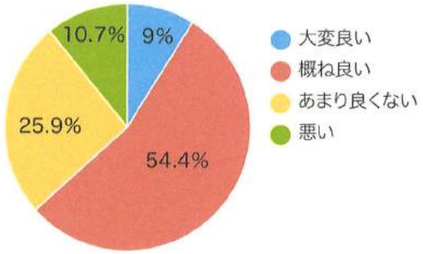
Q 今の朝霧小学校区の魅力はなんですか？

- 納涼盆踊り大会、左義長など朝霧校区の伝統行事
- 朝霧川、大蔵海岸、明石海峡大橋など朝霧校区の景観
- 閑静な住宅地、住みやすい環境など朝霧校区の治安
- 利便性、交通のアクセスが良い
- ボランティアに熱心な方が多い

朝霧校区を見下ろした夜景

環境について

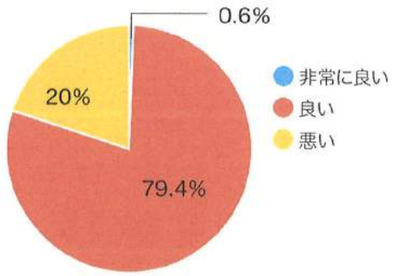
Q ごみステーションの環境・ごみの不法投棄、犬・ネコの適正飼育（フン害等）について。



約 6 割の方は「良い」と回答でしたが、犬猫のフン害に困っていたり、ごみステーションのカラス対策等を訴えている意見もありました。

福祉について

Q 朝霧小学校区の高齢者を取り巻く環境をどう思いますか？

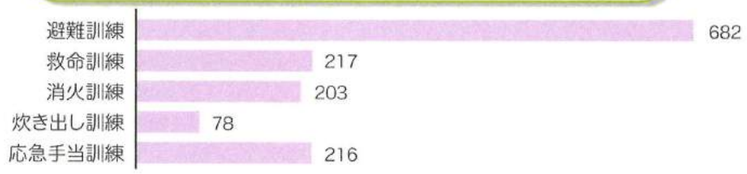


Q あなたはどのような福祉活動、ボランティア活動に関心がありますか？（複数回答可）

上記以外にも「地域猫活動、国際交流促進、子どもや高齢者の居場所づくり」などが関心ある活動としてあがっていました。

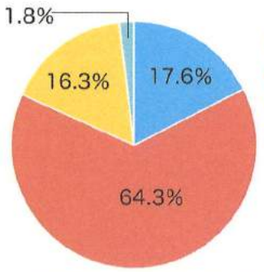
防犯・防災について

Q 校区で防災訓練を行う場合、どのような訓練が必要と思われますか？（複数回答可）



交流について

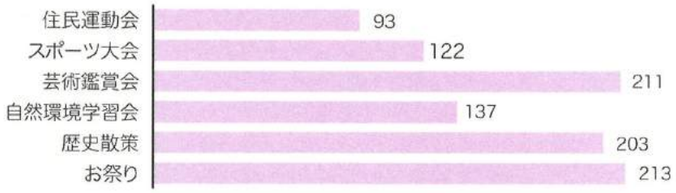
Q 地域の多世代交流は必要だと思いますか？



自由記述でも世代を超えた交流に関するアイデアをたくさんいただきました。

校区防災訓練

Q どのようなスポーツ・文化活動があればいいと思いますか？（複数回答可）



朝霧川の清掃・自然学習会

その他

Q 10 年後の朝霧小学校区がどのような「まち」になったら良いと思いますか？（複数回答可）

スクールガード活動

自由記述より

- 校区住民が得意分野を活かせるような街になればよい（特技のリスト化など…）。
- 人材の掘り起こし、地域活動に参加しやすい仕組みづくりが必要では？
- スクールガードさんの子ども達の見守りをはじめ、世代を超えた繋がりがあり安心して暮らすことができています。
- 環境に優しい街なので、住み続けたいです。
- 伝統行事（盆踊りや左義長）を継続していくための工夫が必要（土日開催、住民の出店など）。

朝霧校区のビジョン（将来像）

憩（いこ）えるまち ふれあいのまち 元気なまち
～手をつなごう ひとりじゃないよ あさぎりは～

これからの朝霧のまちづくりで大切にしたいこと

井戸端会議のように、
多世代が気軽に
語り合える場や仕組み

身近なところからつながる、
助け合う地域内の
ゆるやかなネットワーク

できること、やりたいこと
から少しずつ
自分らしい参加ができるまちづくり

今後（10年）の取り組み

本計画の 10 年とは令和元年度 (2019 年度)～
令和 10 年度 (2028 年度) を指します。

●●●●●印は各取り組み例を示しています。

つながり・交流

朝霧校区は歴史的に浅く、
みんなでまちを作り上げてきました。
今後も、住民同士がつながり、語り合い、
自分らしい関わり方で
まちづくりに参加していただくことが
さらなる発展につながります。
そのため、「つながり、交流」は、
キーワードだと捉えており、
活動の大きな指針としています。

自然・環境

- ふるさとの川 朝霧川の再生活動
  - ●朝霧川クリーン作戦と自然学習の継続と充実
  - ●朝霧川における定期的なイベント活動の実施（多世代ふれあい交流会、学校園等との連携）
- ごみ減量化の推進
  - ●ごみ減量推進研修会への参加
  - ●自治会と連携した環境に優しいステーションの整備
  - ●ごみの分別並びに正しい分別マナーの向上徹底
- 豊かな環境と美化の推進
  - ●朝霧校区での環境保全と美化パトロール

福祉・高齢者

- 多世代交流（住民が地域でつながり続ける機会づくり）
  - ●住民の実態調査：今後想定される課題の掘り起こし
  - ●ふれあいサロンなどを通した、住民の好きなこと、得意なことの拾い上げ
- 住民間の相互支援の仕組みづくり
  - ●地域内の困りごと、課題の実態調査
  - ●住民相互による相談の場の立ち上げ
  - ●お助けボランティア制度(ごみ出し手伝いなど)
- 高齢者の見守り活動
  - ●地元企業との連携の推進
  - ●日頃からの近所の声かけ等の連携
- 健康推進
  - ●多世代に向けたスポーツの普及
  - ●校区検診の活用（若い世代への参加推進）
  - ●健康推進に関する情報の提供

安全・安心

- 防犯・防災体制の強化
  - ●防犯カメラの増設
  - ●定期的な防災訓練の実施
- 安全対策の推進
  - ●子どもの見守り活動・青パト活動
  - ●スクールガードの人材確保
  - ●学校園等との連携
- 安全・安心なまちづくり
  - ●学校園等周辺道路のパトロール強化
  - ●年末警戒パトロール
  - ●高齢者の見守り活動
  - ●安全マップの充実

伝統文化・歴史

- 地域活性化 ふるさとづくり
  - ●より多くの住民が参加できる伝統行事の見直し 盆踊り・左義長
  - ●参加・参画しやすい新しいイベント計画
- 伝統文化の継承
  - ●朝霧音頭・朝霧太鼓の継承と充実
  - ●精霊流しの継承と充実
- 歴史を学ぶ
  - ●まち協だよりでの郷土史コラム掲載
  - ●郷土史講座の開催
  - ●あかねが丘学園ふるさと創造コースとの連携

こども・子育て世代の交流

- 多世代交流
  - ●盆踊り、左義長への積極的な参加
  - ●他の行事でも多世代間の参加を意識する
  - ●ニュースポーツの普及
  - ●コミュニティスクールとの連携
- こども達の発表の場への活動支援
  - ●盆踊り大会でのダンスステージ発表
  - ●好きな事や得意なことを発表できる機会づくり
- 子育て世代の交流機会づくり
  - ●子どもの社会性を育てる取り組み
  - ●子ども会の取り組みの見直し 単位子ども会から校区組織への移行
  - ●校区単位でのイベント開催
  - ●子育て支援団体・イベントの情報発信の充実
  - ●こども夢文庫フレンズフェスタの充実

これからのまちづくり推進体制

多様な住民が関われるように
「サポーター」制度による運営を目指します

まちづくりサポーター

- ●朝霧のまちづくりに興味・関心がある個人
- ●自治町内会・各種団体・事業者などの関係者

- 交流部会
- 安全・安心部会
- 福祉部会
- 環境部会
- 新しい活動

自治・町内会間、まち協との連携を強化する

- 自治・町内会長会
- 実行委員会
  - ・左義長
  - ・盆踊り大会など

共有・承認

- 役員会
- 総会

▼今後検討
- ・地域事務局
- ・広報委員

既存の活動に加え、サポーターによる新しい活動も取り入れていく。

会員

①校区内に居住している人
②校区内の自治・町内会や各種団体
③校区内の事業者（企業、福祉施設など）
④その他（他地域だが朝霧のまちづくりに関わりたい方など）